

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100028		
法人名	社会福祉法人天祐会		
事業所名	グループホーム天羽苑		
所在地	千葉県富津市不入斗224-1		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaijokensaku.mhlw.go.jp
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6階604		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都会には無いのびのびとした自然の環境の中で、利用者様は毎日時間に追われる事無くのんびりと暮らしています。
当苑ではその自然を皆様に感じて頂きながらの散歩は、毎日の日課になっております。毎日午前・午後のレクリエーションにて体を動かし、歌を歌ったりし、おやつ時には好みの飲物を飲んで頂いております。
利用者様第一に考えた支援をさせて頂き、安心して暮らして頂ける様なサービスを心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は平屋造りで、自然に恵まれている。ワンユニットで、デイサービスが併設されている。利用者は毎日散歩を行い、花や草、地域の人や場などの関わり事も多い。玄関を入ると広々としたスペースのリビング。伸び伸びと利用者が寛いでいる。壁には行事の写真が貼られている。地域の人々の交流は多く、奉仕活動、祭礼などに参加している。運営推進会議では家族や地域の方々の参加で行っている。会議の内容を濃い物にしたいと考えている。年2回の防災訓練を行い、消防署、地域の方の参加で行われ、協力体制を築いている。医療は医師・看護師が24時間対応で、居宅療養指導も行い安心である。食事は手作り、季節感のある食事が提供されている。利用者は週2回食材切りを行い、力を発揮している。職員は研修に進んで参加し、研鑽に務めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は職員会議の時に、毎回全員で唱和しており、常に意識を持って業務にあたっている。	職員会議で理念を唱和している。勤務の無い方は全員参加し、共有する。運営やサービスを提供する上で大切な意味を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の奉仕作業や、祭礼等の行事に参加又は見学している。近隣の小学校、幼稚園とも交流し、地元のボランティアが来苑してフラダンスや手話での歌等を披露してくれて喜ばれている。	祭礼の行事に参加。地域の奉仕作業に参加する。地域活動に積極的に関わりを持つ事で、挨拶や会話を楽しむ。時にはバス旅行に誘われる事もある。幼稚園の子供が訪問してくれるなど、地域との関わりは多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の見学の受け入れを行っている。利用者様と職員で地元のスーパーや商店に買い物に行き、総会などで事業所の運営方針や支援の方法を説明し、認知症のある方の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では利用者様の状況や行事の報告は毎回している。 参加された方々から出た意見や情報を頂いて、職員と検討し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回行っている。民生員、区長、地区の代表、介護福祉課などの参加で行われている。現状報告、質問、助言、要望を聞き、話し合いが行われる。より良い施設を目指して行く上で参考にしたいと考えている。地域の方は協力的で、参加して頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回行い、又、参加メンバーも充実しているので、継続して維持出来る様期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議には参加して頂いている。生活保護者が3名入居されており、利用料支払い時に、近況報告を伝えている。	運営推進会議には、介護福祉課や民生員が参加している。民生員の方は、いろいろお話をしてくれる。市の職員には施設の様子を理解して頂き、相談やアドバイスを頂き、積極的に連携を図って行きたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修に積極的に申込み、今までに数人研修に参加し、専門課程も修了している。	身体拘束の研修は行っている。研修後会議で共有し、徹底理解に努めている。利用者の人権を守る為に、拘束を行わず、見守りや連携プレーで対応するように心掛けている。研修を受け職員のスキルアップを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には数名参加している。虐待は身体だけでなく、言葉の虐待もある事を意識させている。管理者やケアマネジャーは介護現場に入り、注意して見ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や勉強会で学ぶ機会を持ちたい。成年後見人制度については、ケアマネジャーより職員に説明はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で先ずご説明し、書面でも承認を頂き、後でトラブルにならない様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑時に利用者様の様子を報告し、ご家族様と話す機会を設け、その中で要望等もお聞きし、職員会議で話し合い改善している。	家族が訪問して頂いた時に、苦情や要望などを話して頂いている。家族アンケート調査で思っている事や、要望などを書く事が出来る。家族から職員に感謝の言葉が書かれている。意見・要望は前向きに受け止め、サービスの向上に繋げたいと考えている。利用者も配慮と支援があれば、意見を示す事が出来る。ケース記録に記入し、職員は共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常業務の中で意見を聞いている。職員から出た意見に関しては、代表者に報告・相談している。	職員会議で意見を出している。管理者は日常の関わりの中で、職員の気付きやアイデアを活かしている。勤務体制や職員の異動にも気を使い、配慮し、関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の巡回した時に、施設内の環境整備に対して指導改善を指摘し、問題点や職員の要望や意見を聞いて、改善するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修を始め、段階に合った研修を受講している。法人内外の研修にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会に数名は参加している。他の職員は交流する機会が取れていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学や体験入居をして頂き、本人との面談を行う中で、不安な事や要望等をお聞きし、コミュニケーションをとる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、体験入居後に必ずご家族に状況報告をしている。面会時にも近況報告をし、ご家族の要望や意見を聞く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や、精神状況を把握し、ご家族の意向を聞き取り、より良い支援が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日課となっているレクや散歩など一緒にを行い、楽しむ機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員とで一緒に利用者を支えるように連絡を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にはなるべく面会を多くして頂ける様お願いしている。外出や外泊も積極的にして頂いている。	家族が面会に来られた時に外食や買い物に行く。同級生が訪問してくれる。毎日散歩に出かける。人間関係や地域社会と関われるように、外泊も積極的に支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく個室にこもらない様に、レクリエーション、散歩、体操に参加して頂く様に働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの施設に入所となる時は、面会に行くよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議を行い、ご本人の意向や希望、要望を聞き、確認している。	職員は利用者の思いや意向に関心を払い、記録に残している。担当者会議で、家族には利用者の日々の様子を伝え、どのように暮らすのが最良か話し合っている。職員は利用者の記録を共有し、一人ひとりを理解し支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何気ない日常会話から、今までの生活内容を把握し、苑での生活に対し、混乱のない様に支援し、継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面、精神面の状況を日々観察し、把握に努めている。一人ひとりに対してあった一日の様子リストを作成している。午後のレクは参加者のみ実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議にて、その都度職員から様子や意見を確認し合い、問題点を解決出来る様検討している。 面会時は、家族へ近況報告など説明し、情報を得ている。	家族・関係者から情報を得る。ケース会議で話し合い、介護計画を作成している。家族の要望や変化が生じた時には、3ヵ月位で見直しを行っている。出来るだけモニタリングを行い、利用者の様子に気配りを行っている。季節の変わり目には体調の変化があり、口腔ケアには気をつけている。	利用者様の健康面や医療面、安全面に付いて心配な点が出ない様、介護計画とモニタリングを、今後もお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケースへ、日中、夜間の様子を記録している。記録には業務する前に目を通し、状況を確認し、申し送りした上で再度入居者様の把握をし、変わった事や気付いた事を共有し、見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングを通し、変化や状況に合わせて、その人に合う様、やりやすい様支援をしている。ご家族様には面会時より話し合いを持ち、良き理解者になれる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日散歩し、近隣の方への挨拶や地域の行事(祭礼・グランドゴルフなど)に参加する事で、交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導の契約を結ぶ事で、主治医、及び薬剤師より、相談、管理維持出来、緊急時は看護師の対応にて24時間体制の支援を受けている。	往診は月2回。看護師は24時間対応。居宅療養管理指導も行っているため、安心である。歯科医院は送迎付きで、家族に対応して頂いている。緊急時も医療と連携して支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日頃より、入居者様の身体、精神的状況を確認している為、変化を見逃す事無く早急に対応し、職員間の報告、看護師への相談にて家族へ遅れる事無く対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は様子見や連絡する事で状況を確認し、ソーシャルワーカーとも話し合いをし、今後の生活を決めている。家族・本人の意見も聞き入れながら、今まで利用している病院先の説明もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明はしている。急激な変化や医療的問題が見られる時は、早くより話し合いの場を設け、次に向けての方向性を考え共有して取り組んでいる。	家族と入居時に重度化した場合の対応は話し合っている。利用者の状態の変化で病院で延命治療を受ける。家族や医療関係者と、早期から話し合いを行い、納得が得られる支援を目指している。緊急時の研修も行い、わかり易い対応マニュアルも作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、貼ってある。入居者様全てが解るファイルが作成してある。研修をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・災害マニュアルが作成してある。 防災訓練は、自主訓練や消防署員立会いの訓練を行っている。 苑に近い順に連絡網が回り、対応出来る様になっている。 地域との訓練もしている。	年2回の訓練を行っている。消防署、民生員、区長などの参加で訓練が行われ、協力体制を築いている。地域の訓練にも参加している。火災・地震・災害、又、夜間訓練も行い、近所のボランティアの参加もお願いしている。連携を図り、いざという時に備えている。備蓄は3日分用意している。AEDの講習会に参加している。	災害対策は特に夜間訓練に力を入れてほしい。近所の方との連携を図り、いざという時に最大の力が発揮出来る様期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様第一主義により、周知、教訓としている。 優しい声掛けや、傾聴し、受容的な姿勢で接している。	職員は、利用者に対して、誇りやプライバシーを傷付けないように心掛けている。トイレ誘導、入浴介助など、言葉掛けで、一人ひとりの権利や人格尊重を忘れずに接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から汲み取り、本人の発言を待ち、自己決定出来る様支援している。 一番楽しみである食事はメニューに取り入れたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的なサービスが提供出来、その中でも入居者様の今までの生活歴をあまり変える事無く、本人主体のペースを大切に、自由に過ごせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣は変化させず、その流れの中で確認し、声を掛けながら説明し、質の向上に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の形態に合わせ提供している。出前、外出時の食事は好みの物を選び、満足してもらっている。テーブル、食器拭き、配膳、下膳も行っている。昼食作りの食材切りも行っている。	食事は利用者にとって楽しみのひとつ。季節の食材を使い、美味しい食事が提供されている。利用者は週2回、食材切りを職員と一緒にいき、見守りと支援があれば力を発揮する事が出来る。年2回、出前を取る日があり、好みの物を食べる事が出来る。そば、天ぷら、寿司など、食を通した取り組みを行い、食欲を高めたり、関心を引き起こす為の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入所者様に合った水分摂取量を確認している。 便通は服薬にて対応もしているが、より良くする為に野菜ジュース、ヨーグルトを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、朝・夕と行い、口腔ケア時には見守り確認を必ず行っている。 義歯の方は毎日夜、洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを確認し、声掛けやトイレ誘導を行い、自立又は現状維持出来る様支援している。	個々に合わせた排泄パターンの支援を行っている。利用者の生活リズムに合わせた排泄支援に心掛け、声掛け、誘導を行っている。自立に向け可能な限りトイレで排泄が出来る様に心掛け、薬に頼らず水分補給や乳製品など摂るようにし、身体を動かすように支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、排便の状態を把握し、主治医へ相談するとともに、野菜ジュースやヨーグルト、バナナ等を摂取して頂き、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、本人の希望に添えるよう心掛けている。	入浴は週3回、午後に入る。本人の希望で毎日入る事もできる。体が温まり気分も良い。清潔保持、安眠などの効果がある。職員は意向を第一に考え、寛いだ気分で入浴が出来る様支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースや生活パターンに合わせて、休息出来る様な環境づくりを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に個人ファイルを作成したり、薬手帳を管理している。 職員は利用者の薬セットは担当制にし、責任を持って管理している。 薬剤師からアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩は毎日の日課としており、ドライブや外出も取り入れ、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行ってみたい場所を個別にお聞きしている。家族等との外出も面会時にお願している。	毎日散歩を行っている。グループに分かれ散歩を行う。季節感を味わう。年間行事では、外出支援は春は桜、スイセン、初詣、秋にはもみじをドライブで楽しみながら出掛ける。利用者と職員の両方のストレス発散や、五感刺激になり、日々の生活の中で活かす事ができ、良い効果になるのではないだろうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりしたおこづかいの中から、おやつ時に販売機にて飲物を購入する事もある。 おこづかい帳に記入し、毎月送付し、残金をお知らせしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族に連絡したい時は、事務所に来てかける支援をしている。 手紙が届いた時は本人に手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには外出時や、ボランティア来苑などに撮った写真を掲示している。 居室には名札が貼ってある。 トイレも解る様にしてある。 クリスマスやお正月なども飾り付けをしている。 テレビ、音楽とその場面によって分けている。	天井が高く、玄関やリビング・廊下はバリアフリーである。雨の日は室内で運動も出来る。ガラス越しに外が見え、桜や植物が見える。テーブル・椅子が置かれ、食事を楽しむ。テレビ鑑賞など、所々の場所に座り寛いでいる。壁には行事の写真が貼られ、利用者は思い出にふける事もある。生活感や季節感を感じ、広々としたスペースである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにて過ごす事が多い為、自分の席の確保をしている。 会話の弾む入居者同士並んでイスを置いている。 日光浴出来る場所も確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室にて今まで使っていた物や、家族が面会時に持って来た物を自由に置いている。 写真も飾っている。	居室には時計、家族の写真、ぬいぐるみ、ベッド、椅子、思い出の物が置かれ、自分なりの工夫がされている。部屋全体が落ち着ける空間になっている。清潔感があり、除湿にも気を配り、居心地良くしてる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、出来ない事を見極め、能力に合わせて意欲、目標に繋がる様に心掛けている。 (トイレ、手すり、洗濯場。)		